

# 未来を育てる力の創造

～茅野市を変える、茅野市は変わる、  
茅野市が変わるのは今しかない～



令和7年度 まちづくり懇談会

# 0 はじめに テーマについて ①



茅野市を未来へつなぐために、  
今、茅野市を変えましょう。



急激で大きな社会構造の変化により、これまで茅野市が作りあげてきた  
まちづくりのやり方が、うまく機能しなくなっています。

茅野市がこれからも安全・安心で住みよいまちで  
あり続けるためには、今までのまちづくりの **やり方** や、  
それを支える人たちの **意識** を、変える必要があります。

茅野市を変えるのは私たちです。

# 0 はじめに テーマについて ②

今、茅野市を変えるためには、市民の皆さんの力が必要です。

長い時間をかけて作りあげてきた茅野市のまちづくりのやり方などを変えるには  
時間がかかります。今、変えるためには **市民の皆さん之力が必要** です。  
今ならまだ、間に合います。

多くの人の力をつなげ、大きなまちの力にします。

まず、現状を見つめ、今、茅野市の **何を、どのように変えるのか**  
みんなで考え、一人ひとりが **自分ごととして行動** していく必要があります。



それが **茅野市の未来を育てる力** になります。

# 1 茅野市の今 人財と財源

急激で大きな社会の変化(人口減少・超高齢化の進展、物価高騰など)が茅野市の人財や財源に様々な影響を及ぼしています。

人口減少・超高齢化の進展、単身世帯や高齢者世帯の増加、ライフスタイルの変化など

物価高騰、公共施設やインフラの老朽化、高齢化社会における社会保障関連費の増加など

- 地域の**担い手不足** や**負担感の増大**などにより、区・自治会、市民の皆さんと行政との協働によるまちづくりを維持するのが難しくなっています。
- **財政支出の硬直化**により、茅野市の未来を見据えた新たな投資を行うことが難しくなっています。

## 「公民協働のパートナーシップのまちづくり」の今

約25年前

福祉分野における  
多様な人たちの交流  
**「やらざあ100人衆」**  
からスタート

分野別ネットワークが生まれ、その後、  
市民活動、地域コミュニティなど  
市民の皆さんの活躍の幅は拡大  
一方で  
多様化する地域課題に対応するため、  
その活動が**細分化、高度化**

今

社会の変化も相まって、多くの市民の皆さんにとって市民活動などが参画しにくいものとなり、茅野市全体でまちづくりを進めている感覚も希薄に

## 2 まちづくりの目的

茅野市を「**幸せを実現できるまち**」にすることです。

元気で健康に、生きがいを持って暮らせる  
仕事をしながら安心して子育てができる  
夢や希望が叶う など

実現したい **幸せは人それぞれ** です。

茅野市に住む人、働く人、関わりのある人など、  
あらゆる人が、**その人なりの幸せを実現** できるまち、  
その幸せがまた別の誰かにつながっていくまち、  
そして、その **幸せの連鎖** が **未来** に向かって続していくまち



これが、茅野市が実現を目指すまちの姿であり、  
**多くの人と共有したいまちづくりの目的**です。

### 3 目的の達成に向けて 基本となる考え方 ①

「幸せを実現できるまち」の 中心 には「交流」があります。

八ヶ岳の豊かな自然環境に惹かれて、  
人が行き交い、移住・定住にもつながっている、  
地域には支え合いや助け合いの姿があるなど、  
茅野市のまちの中心には、  
常に様々な「交流」があります。

これからも「交流」をまちの中心に据え、  
大きなまちの力を生み出す **原動力** として、  
私たちの **幸せの実現** を目指していきます。



### 3 目的の達成に向けて 基本となる考え方 ②

未来を変える のは **若者** です。

**若者** に選ばれる(市外から呼び込む、帰ってくる)ことにより、経済の活性化や市民意識の改革につながり、結果として茅野市が、子どもから高齢者まで、すべての市民にとって、便利で暮らしやすいまち(=「幸せを実現できるまち」)になります。そして、そのまちを **未来にわたって支えていく** のも **若者** です。



魅力ある仕事や子育てのしやすい環境づくり、  
地域の活動に参画しやすい体制づくりなどにより、  
**若者** が積極的に **活躍** できる環境を整えます。



# 4 大きなまちの力を生み出す交流 全体像



# 4 大きなまちの力を生み出す交流 自治と協働 ①

新しい時代の **自治・協働** を共に創造します。

茅野市を「幸せを実現できるまち」にするために、  
地域における市民の皆さんの 支え合い、助け合い や、  
区・自治会、市民の皆さんと 行政との協働 のあり方などを 整理、再構築 し、  
新しい時代に対応した自治・協働を共に創ります。

茅野市の自治や協働の現状を踏まえ、  
茅野市を未来へつなぐために、それを どのように変えて、  
これからのまちづくりに どのようにいかしていくのか、  
みんなで考え、できることから少しづつ  
始めていく 必要があります。



次のページに  
みんなで考えるポイントを  
3つあげています。

# 4 大きなまちの力を生み出す交流 自治と協働 ②

## 1 まち全体に目を向けています。

茅野市のまち全体に目を向け、今、茅野市を未来へつなぐために、限られた人財や財源をどのように使い、自分たちの活動や地域で何ができるか、何をすべきかなどを考え、行動に移していく必要があります。



- かつての「やらざあ100人衆」のような「ごちゃまぜの会」を開き、年代、分野などの異なる様々な人が、多様な意見を持ち寄って、同じテーブルにつき、多様な人や団体、地域を知り、理解を深め、これからのまちづくりについて話し合います。

## 2 新しい人の知恵や力を受け入れます。

若者を中心に、これまで様々な理由でまちづくりに参画する機会のなかった人の知恵や力を受け入れ、新しいまちの力にしていく必要があります。特にまちを未来にわたって支えていく若者と思いを共有し、つながることは欠かせません。



- 区・自治会のモデル事業では、「地域の課題解決の答えは地域にある」といった考え方により、新しい考え方やライフスタイルの変化に対応した区・自治会の運営方法の見直しなどの先進事例を生み出し、市内に展開します。

〔例 回覧板のデジタル化の事例が地区を超えて別の区に共有され、具体的な取組がスタート〕

- 地域に住む人たちの経験や、そこから得られた知恵、知識などと、若者が持つ最新の情報・知識などを融合させ、補い合い、高め合う意識を持ち、力を合わせて課題解決を図る姿勢が大切です。

## 3 “知”的交流を連携につなげます。

多様な地域課題を解決するには、様々な人が持つ“知”（知識や知恵、知見などの目に見えない資産）を融合させながら、連携して取組を進める必要があります。



# 5 未来への投資を行うために 行財政改革の成果と課題

## 茅野市の未来 のために、お金の使い方 を見直します。

### 稼ぐ力の強化（歳入の確保）

成果

- 税収の増加 法人市民税、入湯税が、**ここ数年増加**
- ふるさと納税の増加 令和4年度 **約2億4千万円** ⇒ 令和6年度 **約5億2千万円**

課題

- 交流人口・関係人口、移住・定住の増加、企業誘致による市税などの増加
- ふるさと納税のPR強化 □ 新たな財源の確保(ネーミングライツなど)

### 使い方の整理（適正な歳出）

成果

- 行財政改革プラン ⇒ 令和6年度の成果  
2023の推進 ⇒ 2つの公共施設の廃止、  
11事業の見直しなどが完了 ⇒ 令和7年度予算編成で  
**約2億円の財政効果**

課題

- 経常経費の増加に伴う財政支出の硬直化の改善 □ 基金の積み増し
- 老朽化するインフラや公共施設などへの計画的な対応
- 人口減少時代を踏まえた組織・職員体制の見直し
- 垂直(国県)連携、水平(他自治体)連携によるフルセット主義からの脱却

# 6 そして未来へ

人財や財源が限られていく中、これまでと同じやり方や意識でまちづくりを続けていくことはできません。



昭和30年に1町8か村が合併して茅野町ができてから**70年**になります。今後、限られた人財や財源をまちづくりにいかしていくためには、自分(自分たち)がいる場所だけを良くしようとするのではなく、茅野市のまち全体も良くしようとする意識が大切です。

**幸せ**(幸福感)は、人に前向きさや向上心、人や社会のために何かしようなどの気持ちを生み出すと言われています。この気持ちは、まち全体も良くしようという意識にもつながります。



多くの人の幸せを実現し、まち全体も良くしようという意識を持つ人を増やしながら、新たなまちづくりの原動力として「交流」を拡大することにより、茅野市の未来を育てる大きな力が生み出されます。

その力をいかし、茅野市を、より多くの人が「幸せを実現できるまち」として、未来へつないでいきましょう。